

# 4年 国語科学習指導案

授業者 大阪市立中津小学校 日野 果奈

- 1 日 時 令和7年11月11日(火) 第5校時(14:00~14:45)  
 2 学年・組 第4学年3組(在籍28名)  
 3 単元名 人物の気持ちの変化を伝え合おう (新美南吉「ごんぎつね」東京書籍4年下)  
 4 単元目標

- (1) ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増やし、話や文章の中で用いることができる。  
 [知識及び技能] (1)オ  
 (2) ごんや兵十の行動や気持ちの変化とその理由について、叙述を基に捉えることができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ  
 (3) 物語を読んで感じたことや考えたことを共有し、共通点や相違点などについて気付くことができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ  
 (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
 「学びに向かう力、人間性等」

## 5 単元間の関連と系統

前単元(3年10月)	本単元(4年11月)	次単元(5年11月)
学習材 「サーカスのライオン」 人物の行動や会話、様子を表す言葉などから、中心人物の気持ちやどんな人物かを想像し、伝え合う。	学習材 「ごんぎつね」 人物の言葉や行動の変化を手がかりに、気持ちの変化とその理由について想像し、伝え合う。	学習材 「大造じいさんとがん」 人物の行動や会話から、性格や人柄、考え方など、人物像について想像し、伝え合う。

## 6 単元で取り上げる言語活動

この単元では、学習者が自ら進んで学習に取り組み、自分たちの力で課題を解決していく学習「提案班形式の学習」という言語活動を設定する。これは、指導者主導の一斉学習ではなく、学習者一人ひとりが自分で課題をもち、考え話し合って解決していく学習である。話し合う場面では、学習者が司会進行していく形態をとり、指導者は話し合いを支援する。この言語活動を行うためには、学習者自らがごんや兵十の気持ちの変化を想像したり、そのきっかけを検討したりするなど、自分なりの考えを持ち、それを共有することが必要となる。したがって、本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。(関連:[思考力・判断力・表現力等] C(2)エ)

## 7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増やし、話や文章の中で用いようとしている。((1)オ)	①ごんや兵十の行動や気持ちの変化とその理由について、叙述を基に捉えている。(C(1)エ) ②物語を読んで感じたことや考えたことを共有し、共通点や相違点などについて気付いている。(C(1)カ)	①進んで人物の気持ちの変化と何が変化のきっかけとなったのかを具体的に想像し、学習の見通しをもって、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

## 8 指導にあたって

### 【学習者観】

本学級の学習者は、物語文を読むことが好きな児童が多く、登場人物の気持ちを想像したり、自分の感じたことを発表したりすることに意欲的である。ただし、一方で、登場人物の行動の理由を叙述から考えたり、自分の考えを筋道立てて説明したりすることは十分でない児童も見られる。また、人前で話すことが苦手な児童も少なからずいるため、話し合い活動が思うように進まないこともある。

物語文「走れ」では、叙述から物語の山場でどんな変化が起きたかについて考える学習に取り組んだ。その際、気持ちがわかる語句（オノマトペ）や会話文に注目しながら、山場の前と後では、どのように変わったのかを考え、交流した。自分一人で考えることが苦手な児童が多くいたため、話し合い活動を多く取り入れるようにした。交流することで、自分の考えを少しずつノートにまとめることができるようになってきた。しかし、まとめたことを全体場で発表するのは自信がなく、なかなか難しいと感じた。

そこで9月には物語文の「一つの花」において学習者同士が活発に意見交流できる形として、提案班方式での学習に取り組んだ。まずは、課題選びをし、そこからその課題におかたてそれぞれが一人で考え、その考えをグループ内で話し合せてまとめていった。「走れ」の時には、なかなか考えが書けなかったも児童も、提案班の形で学習を進めるごとに自分の考えを書けるようになってきていて成長を感じた。話し合い活動では、自分の考えを話したり、級友の考えを聞いて自分の考えと比べてたりして、考えを広めた。話し合い活動が進まないときは、指導者が叙述の言葉に着目するように声をかけ全体で考えを深めていった。しかし、級友の考えを取り入れた上で、自分の考えを再構築するまでには至っていない。また、振り返りを書く際も、友だちの考えからどうということがわかったのか具体的に書ける児童は少なく、課題として残った。

### 【単元観】

本単元のねらいは、人物同士の関わりの中で、中心人物の気持ちがどのように変化したのか、そして、それはなぜなのかを考えることである。

本教材「ごんぎつね」は、中心人物であるごんがいたずらをしてしまった兵十に対し、償いをする。しかし、その思いが十分に届かず、結末を迎える。この物語の結末は、学習者の心に残り続けることだろう。

「一」は、ごんが兵十の捕まえたうなぎを逃がし、激怒した兵十から命からがら逃げるといふ、登場人物同士の関係を紹介している場面である。「二」は、ごんは兵十の母親の葬式を見て、いたずらを後悔する場面であり、「三」は、兵十への償いを決意するという登場人物の気持ちや性格が変化するきっかけがわかる場面である。ごんは、繰り返し償いをしていく中で、同じ境遇である兵十に同情や共感の念を強めていくのがわかる。「四」「五」では、兵十と加助の言葉に「引き合わない」と思ふ場面であるが、ここでのごんの償いは、ただ単に同情や共感だけではなく、兵十に気付いてもらいたいという慕情であったことがわかる。「六」では、ごんは兵十に火縄銃で撃たれ、ごんの兵十に対する思いは、十分に届くことなく終わってしまう場面である。ごんの心情は、「同情（おっかあの死）→共感（ひとりぼっちの兵十か）→慕情（かげぼうしふみふみ）」と移り変わり、後悔（兵十のおっかあの死）、寂寞（せきばく）（ひとりぼっちの兵十か）、不満（加助の言葉）、着意（土間のくりやまつたけ）など、さまざまな感情が読み取れる物語である。

この物語では、ごんが兵十に償おうとする思いが、いつの間にか「おれ（ごん）と同じ、ひとりぼっちの兵十か。」というように共感に変化する。登場人物の微妙な変化を捉えるために「兵十のかげぼうしをふみふみ…」「ごんは、おねんぶつがすむまで、いどのそばにしゃがんでいました。」「そのおれにはお礼を言わないで、…引き合わないなあ。」など、ごんの行動や心内語などに注目させて、読むことで気持ちの変化を捉えることができる。また、兵十については、「六」の場面でのごんに対する気持ちの変化を読み取ることが重要であるが、ごんと直接関わる「一」の場面や、ごんの行為とは知らずに話しをしている「四」の場面とも関連付けて考えさせることで、物理的な距離と心情的な距離からごんと兵十の関係を考えることができる。

このように、この単元は、前単元「走れ」で学習した「山場」＝「登場人物の気持ちが大きく変わる場所」という学習を発展させ、登場人物の気持ちが、ほかの人物との関わりの中で、絶えず変化し続けているということを捉えることができる単元であると考えられる。

## 【指導観】

学習者が見通しをもって主体的に学習に向かうために、『言葉の力』の共通理解を図り、「提案班形式の学習」を行う。

『言葉の力』の共通理解は、この単元の学習でどんなことを行うのか、どんな力を身に付ければよいのか学習者自らが考えることである。単元の学習に入る前に「言葉の力：人物の気持ちの変化を想像する」について考えることを知らせる。まず、単元を通しての評価のルーブリックを示し、調べたり、学習活動の見通しをもったりして学習を進めることができるようにする。次に、辞書を用いてルーブリックや「言葉の力」にある言葉を調べたり、学習経験を想起して生かせる学習活動を書き出したりすることで、「言葉の力」の意味について理解を深めていく。学習者は「中心人物の気持ちがどう変わっていったのか」を学習するという点については前物語教材「走れ」で学習しているためすぐに理解できるだろう。さらに、変化するには「きっかけ」や「出来事」があること、「どのように変化したのか」を学習するためには登場人物の言動から「気持ち」を想像する必要があることを、ルーブリックを基に気付くことができるようにしたい。このように、どんな学習活動を行えば、「言葉の力」が習得できるのかを考える。

次に、「提案班形式の学習」についてである。「提案班形式」とは、学習者一人ひとりが自分の考えをもち、自分たちで考えを話し合って解決していく学習活動である。話し合いにおいても、学習者が司会進行していくようにし、指導者は話し合いをコーディネートする。この提案班形式の学習を進めるにあたって、一人学び→提案班内での小集団学習→提案班のプレゼンによる全体交流の3段階に分けて個別最適な学びと協働的な学びを目的に応じて計画的に行う。

一人学びでは、ごんの気持ちの変化がよくわかる「きっかけ」や「出来事」を選ぶ。「きっかけ」や「出来事」が登場人物の気持ちの変化の根拠となることを、ルーブリックを基に気付けるようにする。その上で、以下にあるような書き方で、登場人物の心情の変化を記録する。このとき、心情は、「気付いてほしい・見つからないか心配という気持ち」というように、複数書いてもよいようにする。ただ、その際には、それがどこからわかるのか、根拠を挙げる必要があることも付け加える。登場人物の心情については、「うれしい」「悲しい」などの簡易な言葉にならないように、教科書145ページの「人物の気持ちを表す言葉」を活用する。これらについて調べ、色シールを貼ることで「プラスの気持ち」「マイナスの気持ち」に分類する。これを教室に掲示することで、それらの言葉を活用できるようにする。

次に同じ「出来事（根拠）」を選んだ学習者同士で班を結成し、どう変化したのか、そのきっかけは何かなどをまとめ、クラス全体にプレゼンできるように小集団学習で考えや思いを統合する。提案班内での小集団学習では、プレゼン資料を作成する。作成にあたっては、短冊を作ってもよいし、一人一台端末を用いてプレゼン資料を作成してもよいことを知らせ、表現方法を選ぶことができるようにする。

提案班のプレゼンによる全体交流は、発表側の提案班とフロア側の学習者に分かれて学習を進める。授業の序盤では提案班は学習課題を確かめ、学習場面を知らせ、音読を全体で行う。音読後、提案班は発表の準備を行い、フロア側の学習者は課題に対する自分の考えをノートに記載する。互いが自分の思いや考えを練り合わせる状態にしたうえで、フロア側は提案班のプレゼンを聞き、話し合いを行う。自分の意見と提案班の意見を比べながら聞き、その共通点や相違点を交流することで、自分の読みが広がったり深まったりするだろう。話し合いの中で出てきた学習者自身が納得する意見を書き溜めておくことで、学びの調整ができると考える。指導者は「引き合わないなあ」「こっそり」など、気持ちを読み取ることでできる言葉が学習者の発言から出たときには、学級全体がその言葉に着目できるように、問い返したり、さらに深く踏み込んだりすることで、話し合いをコーディネートする。

「提案班形式の学習」を行うメリットは、指導者主導の一斉学習ではなく、学習者全員が互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりできることである。「自分たちで最適解を探す」「自分の意見が生かされる」という経験をすることは、まさに探究的な学びであると言え、主体的に学習に関わっていくことのできる学習者を育成していくのに役立つだろう。

第三次では、まずは、「何を学んだか」についての振り返りを行う。つまり、ごんの気持ちの変化についてま

・【考え】 （いた気持ちから 思います。 ）気持ちになったと	・【根拠】なぜなら、本文の 「から	・【理由】 （ことがわかるからです。 ）
-----------------------------------------	----------------------	----------------------------

とめるということである。「提案班形式の学習」の際に書き溜めたものを再構成し、ごんの気持ちの変化、きっかけや理由について、「ごんの回想」という形式でまとめるようにする。兵十にいたずらしようと思った場面、兵十のおっかあの葬式の場面、償いとして、いわしを放り投げた場面、加助の話を聞いた場面、兵十に撃たれた場面で、ごんがどんな気持ちだったのかを、自分の言葉でまとめる。これを行うことで、指導者は、単元で身に付けるべき「人物の気持ちの変化を想像する」力がいかに養われたのかを評価することができよう。また、学習者自身も、初めに一人学びをしたものと比較することで、自分の学びの深まりを実感できるようになる。次に、「どう学んだか」についての振り返りを行う。単元の初めに示したルーブリックと照らし合わせながら、自分の学びがどうだったのか、学習をしてきて分かったこと、身に付いた力を今後どう生かすのか、最後まで頑張ったことは何なのかなどについて振り返り、次単元に生かせるようにする。

また、本単元の学習を生かした読書を行うために、同一作者の物語、「動物と人間の関わり」の物語」などを教室にいつでも手に取れるように置くようにする。学習者が置かれている本をどのように読んでいるのかを観察することで、学習が読書に広がっているのかを見取りたい。

## 9 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○「言葉の力」について考え、ルーブリック（評価基準）を基に学習計画を立てる。	・「言葉の力」がどういう意味なのかを考える。特に、「気持ち」「変化」という言葉に着目することで、「気持ちの変化とその理由」について考えればよいと理解できるようにする。 ・学習経験を想起するように指示し、ルーブリックの言葉を基に、何を具体的にすればよいのかを考えることができるようにする。	[思考・判断・表現①] ノート ・中心人物や対人物、出来事について理解しているかの確認
	2	○全文の範読を聞き、内容の大体と大まかな構成をつかむ。	・中心人物・対人物は誰か、それぞれの場面はいつ、どこでの出来事かなどを問うことで、物語の内容の大体と大まかな構成をつかむことができるようにする。	
二	3	○「人物プロフィール」を作成する。	・第一場面を読み、ごんと兵十がどんな人物なのかを想像する。特に、ごんの行動を追うことで、兵十のごんに対する憎しみにも似た気持ちに気付くことができるようにする。	[思考・判断・表現②] ノート ・根拠を挙げながら、ごんや兵十の気持ちの変
	4	○「人物の気持ちを表す言葉」について知る。	・教科書145ページにある「人物の気持ちを表す言葉」を見て、知らない言葉を調べるようにする。 ・「プラスの気持ち」「マイナスの気持ち」に当てはまるものについては、色シールを貼り、分類できるようにする。	
	5	○ごんの気持ちがどう変化しているのか一人学びを行う。	・出来事に着目し、ごんや兵十の行動や会話などから、ごんや兵十の気持ちがどのように変化しているのか、自分なりの考えをもつことができるよ	

	6 7	○提案班に分かれ、発表の準備を行う。	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「AがBに変化した」「理由は」「きっかけは」という言葉が入っているか、ルーブリックを基に気付けるようにする。</li> <li>・出来事ごとに提案班を作り、自分たちの考えを学級全体に説明するための準備を行う。</li> <li>・「AがBに変化した」「理由は」「きっかけは」という言葉は必ず入れるようにし、スライドを作成したり、板書を考えたりする。</li> </ul>	<p>化についてまとめているかの確認</p> <p>[思考・判断・表現③] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんや兵十の心情の変化を、友達や提案班の意見を参考にしながら、メモを取ったり、授業で心に残った言葉を選んだりすることができるかの確認</li> </ul>
	8	○兵十のおっかああの前後のごんの気持ちの変化について提案班形式で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各出来事の前後で、ごんの気持ちが変わるのようにならぬのか、それはなぜなのかを学習者主体で考えることができるようにする。</li> </ul>	
	9	○いわしを投げ込んだ前後のごんの気持ちの変化について提案班形式で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者は「話の中心は何ですか」「学習者Aさん（とBさん）の考えに対してどう思いますか」「その根拠はどこですか」「なぜそう思ったのですか」というように、感想、根拠、理由を問い、あくまでも話し合いのサポートに努め、話し合いが軌道に乗るように声かけをする。</li> </ul>	
	10	○加助との会話を聞く前後のごんの気持ちの変化について提案班形式で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちの変化をまとめていく際には、教科書145ページの「人物の気持ちを表す言葉」を参考にしながら、語彙の拡充を目指す。</li> </ul>	
	11 本 時	○撃たれる前後のごんの気持ちの変化について提案班形式で話し合う。		
	12	○物語全体を通した兵十の気持ちの変化について提案班形式で話し合う。		
三	13	○ごんの気持ちの変化についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの提案班形式の学習を振り返りながら、ごんの気持ちが変わったのか、それはどうしてなのかを自分の言葉でまとめるようにする。</li> </ul>	<p>[知識・技能①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんや兵十の気持ちの変化について、気持ちを表す言葉を用いて表現できているかの確認</li> </ul>
	14	○これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習を振り返って、振り返りを書く。このとき、観点を示して振り返ることができるようにする。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と話し合うことのよさ、学びの自己調整について、振り返ろうとしているかの確認</li> </ul>
<p>[知識・技能①] ノート</p> <p>「おおね満足できる」状況（B）評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんや兵十の気持ちの変化（同情→共感→慕情）やその「理由」や「根拠」などについて、教科書145</li> </ul>				

ページにある気持ちを表す言葉などを用いて表現することができている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・場面ごとのごんの気持ちを問うことで、気持ちが変化していることに気付くことができるようにする。
- また、「それはどうして変化したの？」と理由も尋ねたり、根拠となる文を2～3文と教科書の145ページの気持ちを表す言葉を提示したりすることで、考えや思いをまとめることができるようにする。

#### 【思考・判断・表現①】ノート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・中心人物はごんであり、対人物は兵十であることを理解するとともに、どんな出来事があったのかを簡単にまとめている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・挿絵を基にして誰が出てきて、どんな出来事があったのかを問うとともに、

#### 【思考・判断・表現②】ノート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・ごんや兵十の気持ちが、各出来事の前後でどのように変化しているのか、それはどうしてなのかを叙述を根拠にまとめることができている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・ごんが兵十を、兵十がごんをどう思っているのかが分かる叙述を学習者と共に探し、その変化を捉えるようにしたり、友達の意見を2～3つ取り上げて選べるようにしたりする。
- ・変化した箇所が分かれば、どうしてそこで変化したのかを問うことで、複数の叙述を対比したり、結び付けて考えたりすることで、気持ちの変化の理由が理解しやすくなることを示唆する。

#### 【思考・判断・表現③】ノート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・提案班のプレゼンを踏まえながら、各出来事の前後で、ごんの兵十に対する気持ちの変化とその理由についてまとめることができている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・提案班の意見で「よかったところ (納得)」「わかりにくいところ (質問)」「反対」の観点を提示して、感想をもてるようにしたり、友達の考えをいくつか取り上げ、その中で自分の考えに近い考えを選べるような声かけをしたりすることで、ごんの気持ちの変化をまとめることができるようにする。

#### 【主体的に学習に取り組む態度①】観察・ノート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・友達と話し合いながらメモすることで、友達と学習することの良さに気付くとともに、学習中のメモと自分の考えを対比することによって自分の意見や考えが広がり深まったことに気付き、次の学習にも生かそうとする振り返りを書くことができている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・提案班形式の学習と今までの学習を比較し、クラスの中の交流で活躍した①学習者の根拠を明確にした感想、②友達の考えの付け足しや言い換えなどの意味付け、③質問による考えの追求や明確化、④学習経験や日常体験の関連付けによる解釈などを具体的に取り上げ、それらの表現方法の良さに気付けるようにするとともに、その中から良いと思えるものを、学習者が選ぶことができるように示唆する。
- ・初めの意見と提案班形式の学習を終えた後の意見を比べるように指示し、自分の意見が広がったり深まったりしたことを実感できるようにクラス全体に認め広げるようにする。

## 10 本時の学習（10／13）

### （1）本時の目標

兵十に撃たれる前後のごんの気持ちを想像し、どう変化したのか、どうして変化したのかについて考えることができる。

### （2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 前時の振り返りをし、本時の学習場面を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めから、提案班で授業を進めていくようにする。</li> <li>・教室の机の配置も変えておく。</li> </ul>	
うたれる前後で、ごんの気持ちは、どのように変化したのだろうか。		
2 学習場면을音読する。 3 課題について考える。 ・個人で  ・提案班の発表  ・発表について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズに提案ができるように、提案する学習者は、提案の準備をする。</li> <li>・それ以外の学習者は、自分なりの考えをノートに「人物の気持ち+根拠+理由」をセットにしてまとめることで、提案班の意見と比較しながら考えることができるようにする。</li> <li>・発表者は準備ができ次第、フロアの学習者を支援することができるようにする。</li> <li>・ごんの気持ちが分かる人物の言動（根拠）に着目するよう声かけする。</li> <li>・指導者はコーディネーターとして、発表がよく分かるように、板書をしたり、発表者のサポートをしたりするようにする。</li> <li>・「引き合わないなあ」と思っていたごんが、「その明くる日も」兵十の家に行ったことから、ごんの「今日こそは」という心情に気付かせる。</li> <li>・「こっそり中に入りました」という表現と、これまでの場面の比較することで、兵十に近づきたいごんの心情に迫るようにする。</li> <li>・話し合いが円滑に進むように、話し合いの流れを整理したり、複数の学習者の考えや思いを話題の中心に位置付け、感想、根拠、理由を問うようにしたりして、学習課題の核心に迫ることができるようにする。</li> <li>・納得できた意見はどれか、自分とは違う意見はどれかに着目するように指示することで、自分の考えを再構築することができるようにする。</li> <li>・学習を振り返って、「分かったこと」「参考になった考え」「友達にアドバイスしたこと」などをまとめる。</li> </ul>	[思考・判断・表現③] <u>ノート</u> ・出来事の前後でのごんの心情の変化を、根拠となる叙述と、そのように考えた理由を合わせて述べられているかの確認。
4 課題に対する考えを再構築する。		
5 学習を振り返る。		

## 11 板書計画

